

店頭から
「こんにちは」

第64回

入院時に大切な理性 導尿カテーテルを外してしまい…



ご高齢の男性が入院を。

自分の欲求を押しとおしてしまった結果、大変なことに。

高齢男性が転倒を

2020年（平成32年）開催予定の東京オリンピック。そのポート会場の開催候補地ともなったのが、宮城県の長沼です。

仙台から北へ、自動車で90分程度の平野部ですが、白鳥で有名な伊豆沼と、東北本線を挟んだところにあります。遠くに栗駒山が見える景観は抜群で、世界中の方々に見ていただきたいほど。

その近くに、ご高齢の男性が住んでいます。奥様と2人暮らしをしたいと、ヘルパーや訪問医、また訪問看護やデイサービスなどをフル活用していました。

男性には、脊柱管狭窄症と糖尿病が。カロリー計算による食事指導を受け、あまりにもカロリーを気にして、食事がしっかりとれない生活だったのです。

とはいえ、デイサービスやリハビリ、運動は大嫌い。やがて筋肉がやせ衰え、食事とトイレ以外はベッドの上で過ごすざるを得ない状況になりました。

ある日のことです。夜中にトイレ

レへ行ったとき、転倒を。

筋肉が弱り切っていたからか、起き上がってベッドに戻ることもできず、しかも奥様の力では抱え上げることが不可能でした。

夜中にもかかわらず、隣人の助けを得て、ようやくベッドへ…。

転んだときの様子が本人しか分からないので、「腰が痛い」と訴えられても、転倒によるものか、もともとある脊柱管狭窄症で痛いのか…。訪問医も頭を痛めるばかりでした。

抑制も致し方なし…

さて、トイレにも行けない状況でしたので、結果的に導尿カテーテルをつけることに。

翌日、「外して欲しい」と訴えたものの、当然のことながら、外してはもらえませんでした。

よほど苦痛だったのでしょう。翌朝早くに、抜けるのを予防するため、先端に空気を入れたままのカテーテルを、思いっきり引っ張って、抜いてしまいました。

細い尿道を傷つけながら引っこ抜いたのですから、布団は血だら

けに。ご本人はあまりの痛みに、ショック症状となり、最高血圧が60までにしかならず、救急搬送されました。

病院のICU（集中治療室）では、再度、導尿カテーテルを入れられることに。その際の痛みは、口では表現できないでしょうね。

高齢になると、理性を抑えきれずに、自分の欲求を実行してしまうことも、しばしば。

病院では、上述のようなことがないように、“抑制”と称し、手をベッドに固定、治療を続けざるを得ないことも。命を脅かす行為を防ぐためにも、この場合は避けられないことと、理解しなければならぬのかも知れませんね。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表

薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ

宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

「4月です。からだを動かしましょう」

